

銀山温泉

ガス灯のやわらかな光が、狭い川沿いの通りを照らします。浴衣（軽い綿の着物）を着た宿泊客は、伝統的な旅館から夜の散策に出て、何世紀もかけて作られてきた景色を楽しみます。銀山温泉は、山形県の山中にある温泉地であり、その素朴な町並みでよく知られています。多層階建ての伝統的な旅館には、白いしっくい壁、色鮮やかな鍍絵（しっくいを使った浮き彫り）、木の外装、といった特徴があり、大正時代（1912～1926年）を思い起こさせます。しかし、この町の歴史は、1600年ごろまでさかのぼります。当時、この町は、延沢銀山（文字通り「銀鉱」）として栄えていました。

1600年代なかばの最盛期の延沢銀山の人口は、約15,000人でした。銀山の銀鉱は、日本三大銀山のひとつでした。この町で生産される銀は、江戸（現在の東京）の幕府に直接運ばれていました。銀鉱操業中に温泉が発見され、鉱夫や住人は湯治のために旅館を訪れ、ミネラルの豊富なお湯につかって痛みを癒しました。しかし、銀山の隆盛は長続きせず、銀鉱は1689年までに完全に閉鎖されました。鉱業はなくなりましたが、旅館が建てられ、銀山は温泉地として発展しました。

1913年、銀山川は洪水を起こし、この町に元からあった旅館をほぼ全壊させました。再建は1926年に始まり、この町は、平屋の建物の雑多な集まりから、統一された建築様式が多層階建ての旅館街へと変わりました。現在見られるのはこの旅館街です。1986年には、この町の建築物と歴史的特徴を保つための条例が、地方自治体により制定されました。電線は地下に埋められ、旅館の外観は注意深く管理されています。また、この町の狭い通りは、一般車両通行止めになっています。

銀山は、日本で最も人気のある温泉地のひとつです。この町には、伝統的な各旅館のお風呂に加えて、日帰り客のために公衆浴場があります。浴衣で通りを散策したり、町のお店を見て回ったり、川のそばの公衆足湯に足をひたしたりしている宿泊客をよく見かけます。町の中心を流れる銀山川には、白銀の滝から水が流れてきます。白銀の滝は、銀山川のさらに上流にある落差実に22メートルの滝です。この滝の近くにある白銀公園には、環状の散策路があります。この路をたどる人は、山の自然の美しさや、かつてこの町にあった銀鉱洞のひとつを見て歩くことができます。